

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	衣料品専門店（経営者）	・気温はまだまだ高いが、冬物の単価の高い商品が動きが良い。質が良いからである。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・観光客の入店が例年より多くなっている。また、平均単価が50円ほど上がっている。
		観光型ホテル（商品企画担当）	・12月、1月の稼働率は、前年の同時期の予約状況で10%以上も上回るペースとなっている。
		ゴルフ場（経営者）	・本土のゴルフ客の増加が充分に見込める。
	変わらない	百貨店（担当者）	・天候的に例年並みの予想となる12月商戦であり、11月同様に気温が安定すれば、主力衣料の好調は維持する。また11月中旬に沖縄地区から撤退した量販店の閉店効果が歳暮商戦に良い方向で影響することから、単月においては11月並みの好調となる。
		スーパー（経営者）	・当分厳しい状況は続く。
		コンビニ（エリア担当）	・大きなプラス要因はないが、このままの状況がしばらくは続く。
		コンビニ（経営者）	・横ばい傾向が売上にも来客数にもみられる。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	・コスト面での負担が増えてきている。店内で使う備品等が値上がりしており、多方面での不況のあおりを受けて、比較的安定傾向にあった出版業界も影響が出てきている。原油の高騰により商品をバックするビニールの値が上がったりと、わずかではあるが影響が出てきている。
観光名所（職員）		・沖縄観光は修学旅行等の団体旅行を中心に順調に推移している。今後も悪くなる要素はなく、順調に推移する。	
やや悪くなる	コンビニ（エリア担当）	・業種業態間を越えた競合状況がますます厳しくなることで、売上に影響を及ぼす事になる。新規のヒット商材、サービス業務の導入が急務である。	
	コンビニ（経営者）	・大手スーパーの閉店後は5、60億円のパイの奪い合いがあるため、色々な形で影響が出てくる。	
	観光型ホテル（営業担当）	・修学旅行は順調に伸びているが、一般客の予約の決定が遅れている。年末年始の予約状況も必ずしも樂觀できない。	
悪くなる	商店街（代表者）	・市場の中を通過する観光客は多いが、リピーターであることが多いため、買物の単価は下落している。市場の中の住人も買物を郊外店ですることが多くなり、基本的には危機的状況にある。	
	住宅販売会社（経営者）	・競争相手の破綻が続いており、国、県、地方自治体の公共工事が減少し、民間も厳しい単価減少競争で赤字を余儀なくされており、今後も厳しい。	
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	輸送業（総務担当）	・大型量販店が撤退し、多少なりとも影響はあるが、新規、既存荷主との契約が徐々に決まってきた。年度末に向けてコスト圧縮等リストラが進んでいるとの話もある。
	変わらない	建設業（経営者）	・問い合わせ及び引き合い件数の増加傾向がみられない。
		不動産業（支店長）	・景気が良くなる要因や、兆しがみえてこない。
	やや悪くなる	通信業（営業担当）	・2006年1月から2月にかけて回線利用の最適化により複数回線の統合があるので、大口ユーザ回線が大幅減少の見込みである。結果、現在提供中の回線数が減少する。
悪くなる	-	-	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（経営者）	・現在の依頼が2、3か月先を見越しての依頼も多く、また派遣の利便性を理解してきている企業が増えている。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・求職者の増加はやや不安定感があるのに対して、求人数は伸び続けている。
学校〔専門学校〕（就職担当）		・年末を迎え県内企業の採用活動は年初めより活発化してくる。そのため、それを見越して事前に活動を行う企業が増加傾向にある。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	職業安定所（職員）	・10月は前年と比較すると新規求職申込件数は15.7%、紹介件数は23.8%、月間有効求職者は9.4%、就職件数は6.5%増加し、県外就職者は35.2%も減少している。中途採用は賃金等の条件が低くなる傾向があり、再就職を困難にしている。主婦層を中心としたパート求職者は増加、県外希望者は横ばい、雇用保険受給者は減少している。1月にホテルがオープン予定で、多数の雇用が見込まれるなどの改善の動きは見られるが、求職求人も増加傾向で推移していき、雇用情勢は依然厳しい状況が続く。
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	-	-